

# 第7回 ひとひと 女と男の一行詩 表彰式

【最優秀賞】「幸せにすると言ったのに、幸せになったのは俺の方だ。」



▲「妻が昨年、一行詩に応募。私にも書けるなど軽い気持ちで応募しましたが、まさか最優秀とは・・・。」と受賞の喜びを話す津村さん。



▲自らの経験をもとに、介護、教育の問題の中でおこる男女関係のひずみについて話す南野さん。

第7回女と男の一行詩の表彰式が10月22日に文化会館で行われました。「幸せにすると言ったのに、幸せになったのは俺の方だ」の詩で最優秀賞を受賞した津村信之さんも東京から駆けつけ、受賞式に列席しました。

現在、65歳の津村さんは福岡から上京し、職を転々とする中、29歳で結婚。しかし、30代半ばまで安定した職を得ることができず、奥様にはたいへん苦勞をかけたそうです。「長く連れ添っていても、忘れてはいけない気持ちってありますよね。」と少し照れながら話す津村さん。今まで支えてくれた人への素直な想いが評価されての受賞に、当の奥様も大喜びされているそうです。

また、表彰式の後、大阪府の高校で男性家庭科教諭として教壇に立つ、南野忠晴さんが「出会いから生まれる男女共生～『らしきマニュアル』から脱出しよう」と題し、基調講演を行いました。「助け合える一助けすぎない」、「頼り合える一頼りすぎない」、そういった『支配』でも『依存』でもない、一人で生きていける者同士が適度な距離を持って結びつくような関係を築いていてもらいたいものです。」と男、女のイメージにとらわれない共生の必要性を訴えました。

## 「女と男の一行詩」冊子発行!!

第7回の応募作の中から、一次審査を通過した作品319点を収めた冊子をこの度、発刊しました。

市役所1階市民活動推進課において一冊200円で販売しています。また、郵送販売も受け付けます。詳しくは下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】市民活動推進課 ☎ 82-1134

